



Cisco UCS ファブリック インターコネクト の接続

- [ネットワーク接続の準備 \(1 ページ\)](#)
- [コンソール ポートとの接続 \(2 ページ\)](#)
- [管理ポートの接続 \(3 ページ\)](#)
- [SFP28 イーサネット ポートまたはファイバ チャネル ポートへの接続 \(4 ページ\)](#)
- [SFP28 トランシーバおよび光ファイバ ケーブルのメンテナンス \(7 ページ\)](#)

ネットワーク接続の準備

Cisco UCS ファブリック インターコネクトは、次のタイプのポートを提供します。

- ローカルの管理接続を作成する RS-232 ローカル コンソール ポート。
- LAN に接続するためのイーサネット ポート（暗号化および非暗号化）。
- SAN に接続するためのファイバ チャネル。

Cisco UCS ファブリック インターコネクトのネットワーク接続を準備するときは、各インターフェイスタイプについて次の事項を考慮し、ポートを接続する前に必要なすべての機器を揃えてください。

- 各インターフェイス タイプに必要なケーブル
- 各信号タイプの距離制限
- 必要な他のインターフェイス機器

コンソール ポートとの接続



注意 コンソールポートをモデムに接続できます。モデムに接続しない場合は、システムの電源を投入する前またはシステムがブート プロセスを完了した後で接続します。

Cisco UCS ファブリック インターコネクトのコンソールポートは、RJ-45 インターフェイス経由で RS-232 シリアル接続を提供します。このインターフェイスは、次のタスクに使用できます。

- 新規にインストールされたシステムで、他の接続オプションがないものに対する初期設定の実行
- 他の接続を利用できない場合のソフトウェア リカバリ タスクの実行
- ネットワークの統計情報およびエラーのモニタ
- SNMP エージェント パラメータの設定
- ソフトウェア アップデートのダウンロード

このポートに接続されるデバイスには、非同期伝送の機能が必要です。

始める前に

次の一部またはすべてを入手しなければならない可能性があります。

- Cisco シリアル コンソール管理ケーブル。
- DB9 シリアル アダプタ向けの USB およびアダプタに必要なドライバ。
- PuTTY、HyperTerminal または Procomm Plus などのターミナルエミュレーションソフトウェア。
- VT100 ターミナルエミュレーションをサポートできるコンピュータ。

手順

ステップ 1 シリアル管理ケーブルの RJ-45 端をファブリック インターコネクトのコンソールポートに接続し、ラップトップやその他のコンピュータのシリアルポートに DB-9 雄端を接続します。

ご使用のコンピュータにシリアルポートがない場合、USB アダプタ向けにシリアルを使用する必要があります。アダプタのドライバのインストールを確実に行います。

ステップ 2 ターミナルソフトウェアを起動します。

ステップ 3 次のようにターミナルソフトウェアを設定します。

- 確立しようとしている接続の COM ポートは、ファブリック インターコネクトとの接続です。これを確認するには、コンピュータのデバイス マネージャを認識する必要があります。
- 他の接続パラメータは、9600 ボー、8 データ ビット、パリティなし、1 ストップ ビットです。

ステップ 4 ファブリック インターコネクトへの接続を開くためにターミナル ソフトウェアのコマンドを使用します。

セッション ウィンドウが開始され、次のプロンプトの 1 つが表示されます。

```
loader>
```

または

```
switch (boot) #
```

または

```
FI-A (local-mgmt) #
```

現在端末アクセスがあります。プロンプトによって、すべての Cisco UCS Manager CLI コマンドまたは大幅に短縮された一連のコンフィギュレーション コマンドを持つことができます。

管理ポートの接続



注意 IP アドレスの衝突を防ぐため、初期設定が完了するまで、管理ポートをネットワークに接続しないでください。構成方法については、お使いのバージョンの Cisco UCS Manager の構成ガイドを参照してください。構成ガイドは、次の URL から入手できます。 <http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-manager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>

イーサネット管理コネクタ ポートには、スイッチまたはルータに接続する RJ-45 インターフェイスが装備されています。

手順

ステップ 1 イーサネット管理コネクタ ポートに、対応するモジュラ ケーブルを接続します。

- ポートをイーサネットスイッチまたはハブに接続するには、ストレート UTP ケーブル（モジュラ、RJ-45）を使用します。
- ルータ インターフェイスに接続するには、クロス ケーブルを使用します。

ステップ2 ケーブルの反対側をデバイスに接続します。

SFP28 イーサネット ポートまたはファイバチャネル ポートへの接続

SFP トランシーバのケーブルの取り付けまたは取り外し



注意 光ファイバケーブルの損傷を防ぐために、ケーブルに公称制限値を超える張力をかけないでください。また、ケーブルに張力がかかっている場合でも、ケーブルを半径1インチ未満に曲げないでください。ケーブルに張力がかかっている場合は、半径2インチ未満に曲げないでください。

トランシーバの取り付け

イーサネットまたはファイバチャネルポートに接続するには、SFP28 トランシーバを使用します。

手順

ステップ1 静電気防止用リストストラップを取り付けて、使用手順に従います。

ステップ2 ポート ケージのダスト カバーを外します。

ステップ3 トランシーバのポート側のダスト カバーを外します。

ステップ4 次のようにトランシーバをポートに差し込みます。

- マイラータブ付きのトランシーバの場合、タブが下にくるようにし、ポートにしっかりとまるまでトランシーバをゆっくり差し込みます。
- ベールクラスプ付きのトランシーバの場合、クラスプが下になるようにし、クラスプを持ち上げてトランシーバの上部で閉じてから、ポートにしっかりとまるまでトランシーバをゆっくり差し込みます。
- トランシーバが取り付けにくい場合は、トランシーバの向きと、タブやクラスプの位置が正しいかどうかを確認してください。

(注) ケーブルをトランシーバに接続できない場合は、トランシーバのケーブル側にダストプラグを取り付けるか、またはそのままにします。

トランシーバの取り外し

イーサネットまたはファイバ チャネル ポートに接続するには、SFP28 トランシーバを使用します。



注意

過度に SFP または SFP+ トランシーバを設置し、取り外すと、耐用年数が短くなる可能性があります。トランシーバの取り外しおよび取り付けは、必要な場合以外には行わないでください。トランシーバの取り付けまたは取り外しを行う際は、ケーブルやトランシーバの破損を防止するため、ケーブルを抜いた状態で行うことを推奨します。

手順

ステップ 1 静電気防止用リストストラップを取り付けて、使用手順に従います。

ステップ 2 トランシーバにケーブルが接続されている場合は、次の手順を実行します。

- あとで参照するために、ケーブルとポートの接続を記録しておきます。
- ケーブルのリリースラッチを押し、コネクタの接続部付近をつかんで、コネクタをトランシーバからゆっくり引き抜きます。
- ダスト プラグを、トランシーバのケーブル側に差し込みます。

次の手順でトランシーバが容易に外せない場合、トランシーバを完全に押し込んで、ラッチが正しい位置にあるかどうか確認してください。

ステップ 3 ポートからトランシーバを取り外します。

- マイラー タブ ラッチ付きのトランシーバの場合、タブをまっすぐに（ひねらずに）ゆっくり引っ張り、ポートからトランシーバを抜き取ります。
- ベールクラスプ ラッチ付きのトランシーバの場合、下方向にクラスプを押し開き、ポートからトランシーバを抜き取ります。

（注） SFP28 トランシーバを取り外せない場合は、一旦ベールクラスプを上位置に戻して再固定します。そして、SFP28 トランシーバをケージの内側に向かって上向きに押し込みます。次に、ベールクラスプを下向きに下げ、SFP28 トランシーバに軽く上向きの力をかけながら引き出します。このとき、ポート ケージを傷つけないよう注意してください。

ステップ 4 トランシーバを工場に返送する場合、トランシーバのポート側にダストカバーを挿入し、トランシーバを静電気防止用マットの上に置くか、または静電気防止袋に入れます。

ステップ 5 別のトランシーバが取り付けられていない場合、オプティカル ケージにきれいなカバーを挿入して保護します。

SFP28 トランシーバのケーブルの取り付けまたは取り外し

SFP28 トランシーバへのケーブルの取り付け



注意 ケーブルやトランシーバの破損を防止するため、トランシーバへのケーブルの取り付けは、トランシーバをポートに設置してから行ってください。

手順

ステップ 1 静電気防止用リストストラップを取り付けて、使用手順に従います。

ステップ 2 ケーブルのコネクタのダスト カバーを外します。

ステップ 3 トランシーバのケーブル側のダスト カバーを外します。

ステップ 4 ケーブルコネクタをトランシーバに合わせ、しっかりはまるまでコネクタをトランシーバに差し込みます。

ケーブルが取り付けにくい場合、ケーブルの向きを確認してください。

接続の確認方法については、お使いのバージョンの Cisco UCS Manager の構成ガイドを参照してください。構成ガイドは、次の URL から入手できます。 <http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-manager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>

トランシーバからのケーブルの取り外し



注意 銅ケーブルの損傷を防ぐために、ケーブルに公称制限値を超える張力をかけないでください。また、ケーブルに張力がかかっていない場合でも、ケーブルを半径1インチ未満に曲げないでください。ケーブルに張力がかかっている場合は、半径2インチ未満に曲げないでください。



注意 トランシーバからケーブルを引き抜くときは、ケーブルのコネクタ部分を持ってください。コネクタの光ファイバケーブル端子が損傷することがあるので、ジャケット スリーブを持って引っ張らないでください。



注意 ケーブルが抜けにくい場合は、ケーブルのラッチが外れているかどうか確認してください。

手順

-
- ステップ 1** 静電気防止用リスト ストラップを取り付けて、使用手順に従います。
- ステップ 2** ケーブルのリリース ラッチを押し、コネクタの接続部付近をつかんで、コネクタをトランシーバからゆっくり引き抜きます。
- ステップ 3** ダスト プラグを、トランシーバのケーブル側に差し込みます。
- ステップ 4** ダスト プラグを、ケーブル端に差し込みます。
-

SFP28 トランシーバおよび光ファイバ ケーブルのメンテナンス

高精度の信号を維持し、コネクタの損傷を防ぐためには、SFP+ トランシーバと光ファイバ ケーブルを常に埃のない清潔な状態に保つ必要があります。減衰（光損失）は汚れによって増加します。減衰量は 0.35 dB 未満に保つ必要があります。

メンテナンスの際には、次の注意事項に従ってください。

- トランシーバは静電気に敏感です。静電破壊を防止するために、シャーシに接続している静電気防止用リスト ストラップを着用してください。
- トランシーバの取り外しおよび取り付けは、必要以上に行わないでください。取り付けおよび取り外しを頻繁に行うと、耐用年数が短くなります。
- 未使用の光接続端子には、必ずカバーを取り付けてください。埃が付着した場合には、埃によって光ファイバ ケーブルの先端が傷つかないように、使用前に清掃してください。
- コネクタの端に触れず、指紋やその他の汚れが付かないようにしてください。
- 定期的に清掃してください。必要な清掃の頻度は、設置環境によって異なります。また、埃が付着したり、誤って手を触れた場合には、コネクタを清掃してください。ウェットクリーニングおよびドライクリーニングの両方の方法が有効です。設置場所に合った光ファイバのクリーニング手順を参照してください。
- 埃が付着していないこと、および損傷していないことを定期的に確認してください。損傷している可能性がある場合には、清掃後に顕微鏡を使用してファイバの先端を調べ、損傷しているかどうかを確認してください。

